WHITE PAPER ｜ Google Tag Manager 運用ガイド

GTMタグが正しく動かないときの原因と対処法



Start Challenge Consulting co., ltd.
挑む力が、世界を照らす

発行日：2026年8月

CONFIDENTIAL

GTMタグの不具合でよくある症状

不具合は「タグが発火しない」だけではなく、**重複計測とGA4への未到達**を含む3類型に大別される。まず「どこまで正常に動いているか」を切り分けることが、原因特定の起点となる。

類型A｜発火しない・停止

- タグが発火しない
- 特定のページだけ発火しない
- 公開後に突然計測されなくなった

類型B｜重複・タイミング

- 同じイベントが2回以上計測される
- フォーム送信前にコンバージョンが記録される

類型C｜GA4未到達・不一致

- GTMのプレビューでは動くがGA4に反映されない
- GA4のリアルタイムには表示されるがレポートに反映されない
- 広告の管理画面とGA4の数値が一致しない

切り分けの4段階：① GTMコードの読み込み → ② タグの発火（Tags Fired） → ③ GA4への到達（DebugView） → ④ 実データとの一致
どの段階まで正常かを特定してから、個別の設定を調査する。

事実：症状は「発火しない」「重複計測」「GA4未到達」に大別される／解釈：類型化により調査範囲を限定できる／提案：4段階の切り分けを標準手順化
出典：本ホワイトペーパー構成案（提供資料）

最初に確認する基本チェックリスト

不具合の多くは、**コンテナの公開状態・コンテナID・トリガー設定**という基本項目の確認で切り分けできる。複雑な設定調査に入る前に、以下8項目を上から順に確認する。

確認項目	確認内容
コンテナの公開	ワークスペースの変更が「公開」済みか（保存のみは本番未反映）
コンテナID	設置されているIDが対象サイトのものと一致しているか
コードの読み込み	対象ページでGTMコードが実際に読み込まれているか
タグの状態	タグが一時停止（Paused）になっていないか
トリガー設定	タグに意図したトリガーが割り当てられているか
測定ID	GA4測定ID・広告コンバージョンIDが正しいか
バージョン	最新バージョンが本番環境に公開されているか
キャッシュ	サイト側・CDNのキャッシュが残っていないか

コンテナIDの確認例

GTM-XXXXXXX

ページのソースを表示し、上記書式のIDが対象サイトのものと一致するかを確認する。

別サイト用・テスト環境用のコンテナを誤って設置していないかも併せて確認する。

補足：基本項目の確認漏れが原因であるケースは多く、上位から順に確認することで調査対象を大幅に絞り込める。ここで解消しない場合のみ、Chapter 3の原因別診断へ進む。

事実：GTMは「保存」と「公開」が別操作である／解釈：公開漏れは初動確認で検出できる／提案：8項目を定型チェックリストとして運用する
出典：本ホワイトペーパー構成案（提供資料）

原因① GTMコードが正しく設置されていない

設置漏れ・重複設置・環境間のID相違は、**タグが一切発火しない典型的な原因**である。ページのソースを「GTM-」で検索し、設置状態を目視で確認することで判別できる。

よくある原因

- **<head>** 内のコードが抜けている
- **<body>** 直後の **noscript** コードが設置されていない
- GTMコードが特定ページにしか設置されていない
- テスト環境と本番環境でコンテナIDが異なる
- CMSのテーマ変更でコードが消えた
- GTMコードが2重に設置されている

対処法

1. ブラウザで対象ページのソースを表示する
2. **GTM-** でページ内検索する
3. コンテナIDが正しいか確認する
4. 同じコンテナが重複していないか確認する
5. 複数ページで同じ確認を行う

補足：WordPressでは、テーマとプラグインの両方からGTMを設定していないかを確認する（重複設置の典型例）。

事実：GTMはheadとbody直後の2箇所に設置する仕様／解釈：ソース検索で設置状態は即時に判別できる／提案：複数ページで横断確認する
出典：本ホワイトペーパー構成案（提供資料）

原因② トリガー条件が正しくない

タグが発火しない原因として特に多いのはトリガー条件の設定ミスである。**URLの一致方式（等しい／含む）と、末尾スラッシュ・クエリパラメータの扱い**を確認する。

よくある設定ミス

- **`Page URL`** と **`Page Path`** を混同している
- 「等しい」と「含む」の使い分けを間違えている
- URL末尾のスラッシュを考慮していない
- クエリパラメータ付きURLに対応していない
- ボタンの **`Click ID`** / **`Click Classes`** が変更された
- クリックトリガーで有効化条件が不足している
- AND条件とOR条件を間違えている

対処法：URL条件の設計

① サンクスページを完全一致で指定する場合

```
Page Path equals /contact/thanks/
```

② パラメータ付与や末尾差異を許容する場合

```
Page Path contains /contact/thanks
```

③ 条件を広げすぎると誤発火につながるため、対象範囲（該当するURLの一覧）を確認しながら調整する。
④ クリックトリガーは変数の実値を確認してから条件を確定する。

補足：「等しい」は表記ゆれに弱く、「含む」は対象範囲が広がりやすい。どちらも実URLの確認を前提に選択する。

事実：URL一致方式には完全一致と部分一致がある／解釈：条件の広狭が未発火・誤発火を左右する／提案：実URL一覧に基づき条件を決定する
出典：本ホワイトペーパー構成案（提供資料）

原因③ Webサイトの動作方式とタグが合っていない

URLが変わらない画面遷移や非同期送信のサイトでは、通常のページビュートリガーでは計測できない。**「クリック時点」ではなく「処理完了時点」を計測対象とする**ことが要点となる。

計測に注意が必要なサイト

- SPA（シングルページアプリケーション）
- Ajaxでフォーム送信するサイト
- モーダル内にフォームがあるサイト
- URLが変わらず画面だけ切り替わるサイト
- iframe内にフォームやボタンがあるサイト
- 外部予約システムへ遷移するサイト

対処法

- SPAでは履歴変更トリガー（History Change）を使用する
- Ajaxフォームでは送信完了イベントを取得する
- データレイヤーへ完了イベントを送信する
- iframe内の計測は提供元の設定可否を確認する
- 外部ドメインへの遷移にはクロスドメイン設定を行う

補足：単純な「ボタンクリック」ではなく、処理が正常に完了した時点で計測することが重要である（クリック計測は誤差の要因となる）。

事実：SPA・Ajax構成ではページ遷移が発生しない／解釈：ページビュー前提のトリガーは機能しない／提案：完了イベントをデータレイヤーで受け渡す
出典：本ホワイトペーパー構成案（提供資料）

原因④ タグは発火しているがGA4に届かない

GTM上で「Fired」と表示されても、GA4に反映されるとは限らない。**送信の遮断（同意モード・ブロッカー）とGA4側の除外設定**が主要因であり、DebugViewでの受信確認が判定基準となる。

主な原因

- GA4測定IDが間違っている
- Googleタグが先に読み込まれていない
- イベント名やパラメータ名が不正
- 同意モードにより送信が制限されている
- ブラウザや広告ブロッカーで通信が遮断されている
- 内部トラフィック除外が適用されている
- データフィルタで除外されている
- GA4側でキーイベントに設定されていない

確認方法

- GA4のリアルタイムレポートを確認する
- DebugViewでイベントを確認する
- イベント名とパラメータを確認する
- ブラウザの開発者ツールで通信状況を確認する
- GA4のデータフィルタ設定を確認する

留意点：通常レポートへの反映には時間がかかる場合がある。リアルタイム・DebugViewで受信が確認できれば、設定は正常と判断できる。

補足：「発火＝計測完了」ではない。GTMの発火確認とGA4の受信確認は、必ず別の工程として検証する。

事実：GTMのFired表示はGA4への到達を保証しない／解釈：遮断・除外設定が未到達の主要因／提案：DebugView確認を検証手順に組み込む
出典：本ホワイトペーパー構成案（提供資料）

原因⑤ タグの二重発火・重複計測

実際の問い合わせ数よりGA4のキーイベント数が多い場合は二重発火を疑う。**GA4の設置経路をGTMへ統一し、計測点を「送信成功」の一点に絞る**ことで解消する。

よくある原因

- GTMとWebサイトへGA4をそれぞれ直接設置している
- 同じタグに複数のトリガーが設定されている
- 送信ボタンのクリックと送信完了の両方を計測している
- フォーム送信の再試行でもイベントが発生している
- サンクスページを再読み込みすると再計測される
- GTMコンテナ自体が二重に読み込まれている

対処法

- GA4の設置経路をGTMへ統一する
- 発火トリガーを1つずつ確認する
- 除外トリガーを設定する
- クリックではなく送信成功を計測する
- `event_id` などで重複を識別する
- `sessionStorage` を利用して同一セッション内の再発火を防ぐ

補足：重複は「経路の二重化」と「計測点の二重化」に分かれる。前者は設置統一、後者はトリガー整理で対処する。

事実：GA4は直接設置とGTM設置の併用で重複する／解釈：実件数との乖離が重複計測の検出指標／提案：設置経路をGTMに一元化する
出典：本ホワイトペーパー構成案（提供資料）

Tag Assistantを使った原因特定手順

プレビューモードでは発火状況をイベント単位で確認できる。**Tags Not Firedと変数の実値を突き合わせる**ことで、未発火の原因を条件レベルまで特定できる。

確認手順

1. GTMで「プレビュー」を選択する
2. 対象サイトのURLを入力する
3. サイト上で計測対象の操作を行う
4. Tag Assistantで発生イベントを確認する
5. Tags FiredとTags Not Firedを確認する
6. 対象タグの発火条件を確認する
7. Variablesで変数の実際の値を確認する
8. 修正後、再度同じ操作で検証する

確認箇所	確認内容
`Tags Fired`	タグが発火したか
`Tags Not Fired`	発火しなかった理由
`Variables`	URLやクリック情報の値
`Data Layer`	イベントやデータの受け渡し
`Consent`	計測への同意状態

診断の要点：

・未発火時は Tags Not Fired → Variables の順に確認する

・条件に使う変数の実値が想定と一致しているかを見る

補足：修正後は必ず同一操作で再検証し、発火・未発火の状態が意図どおりに変化したことを確認する。

事実：プレビューモードは発火可否と変数値を提示する／解釈：未発火の理由は条件と実値の差分で特定できる／提案：修正後の再検証を必須工程とする
出典：本ホワイトペーパー構成案（提供資料）

トラブル解決フローと運用ルール

GTM単体の発火確認で終わらせず、**GA4への到達と実際の成果件数までを1本の検証フローとして通す**ことで、信頼できる計測環境を維持できる。

トラブル解決フロー

1. GTMコードの設置を確認する
2. コンテナの公開状態を確認する
3. プレビューモードでタグの発火を確認する
4. トリガー条件と変数の値を確認する
5. GA4 DebugViewで受信を確認する
6. 実際の問い合わせや購入件数と照合する
7. 二重発火や欠損がないか確認する
8. 修正版を公開し、公開後に再検証する

再発防止の運用ルール

- タグ名とトリガー名の命名規則を統一する
- 公開前に必ずプレビューで検証する
- バージョン名に変更内容を記載する
- 計測仕様書を作成する
- 月1回、GA4と実データを照合する
- フォームやサイト改修時はGTMへの影響を確認する
- 重要イベントにはテスト結果を残す

結論：検証の終点は「タグが発火したこと」ではなく「GA4に到達し、実際の成果件数と一致していること」に置く。
公開前検証と月次照合を運用ルールとして定着させ、計測データを意思決定に使える状態で維持する。

事実：発火確認と実データ照合は別工程である／解釈：照合まで行わないと欠損・重複を検出できない／提案：月次照合と公開前検証をルール化する
出典：本ホワイトペーパー構成案（提供資料）

お問い合わせ

本資料の内容に関するご質問、および**GTM・GA4の計測設計・実装診断・運用ルール整備**のご相談は、下記までご連絡ください。

項目	内容
会社名	**Start Challenge Consulting**
メール	**info@startchg.com**
担当	平出

Start Challenge
Consulting co., ltd.
挑む力が、世界を照らす

計測環境の現状診断から、トリガー設計・GA4連携の実装、運用ルール整備までを一貫してご支援します。
「計測データが意思決定に使える状態か」を起点に、貴社の運用体制に合わせてご提案いたします。

補足：ご相談時に、対象サイトのURL・GTMコンテナID・発生している症状（本資料P2の類型）をお知らせいただくと、初回から具体的な診断が可能です。

本資料は情報提供を目的として作成したものであり、記載内容の完全性・最新性を保証するものではありません。仕様の変更等により実際の画面・手順と異なる場合があります。

© Start Challenge Consulting co., ltd. ｜ Confidential